

会報 101号

発行 一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ

(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)



丸山花木園(静岡市向敷地周辺)

第5回 災害フォーラム を終えて

■開催日/令和8年1月11日(日)

■会場/シズウエルにて

昨年度までの災害に対する体験や支援報告から、自身が被災者となった際の生活再建術、地域で共に暮らす障がい有する方の避難計画の現状、県内の竜巻被害支援を通じた静岡DWATの活動報告等3つの視点で「知る・学ぶ・考える」をテーマに開催しました。

「災害時 その人らしい暮らしの再建」では弁護士、防災士で県被災者支援アドバイザーとして全国で活躍中の永野海先生から災害発災後、しばらくして復旧や復興期に入り生活を立て直していく上で必要な情報について話されました。活用できる制度を知ること、生活再建に大きな差がでることは衝撃的でした。ワークショップを通じてさらに具体的に学ぶことで、情報を知っている人がいかに再建できるかを実感すると共にもっと周知していく必要性を感じたところです。

静岡県社会福祉協議会の村松経営支援課長からは、牧之原市竜巻災害支援を進める「静岡DWATの活動」について報告され、再建にはまだまだ時間がかかること、さらに自分の生活圏域で発生したことを考えると経験がないだけに如何にスムーズに初動が行えるのか、平時からの訓練が重要であること、さらに登録は事業所を通じてということで人材不足の現場ではその思いがあっても行動に移せないことも課題と感じました。

「医療ニーズの高い障がい児・者の避難計画の現状を学び、介護職としてできることを考えよう」をテーマに重症心身障害に関わり現在県医療ケア児等支援センターでスーパーバイザーとして活動される小林先生からは、個別避難計画がどれだけ実行できるものであるのか、人工呼吸器等の電源確保やケアを必要とする方々の避難所整備をどのように行っていくのか、福祉事業所だけでなく自治体や医療機関との連携が重要であり、平時からどのように連携を取っていくかが大切であると感じました。

今回のフォーラムを通して、介護関係者として防災・減災に対する職場のストレングス(強み)・ウィークネス(弱み)の共有認識、課題に向けて整備等が重要であることから災害支援委員会として、今後も会員、介護に従事する方々、一人でも多くの方に関心を持って頂き、「備えに対する意識・防災力」の啓発活動を続けていきたいと思います。

(災害支援委員会・長倉 浩之/鈴木 健太)



参加者の感想

具体的な内容が多く、とても分かりやすかった。再建の内容は、知識のあるなしの場合の違いを知り、とても興味深く、この研修に参加できて良かったと思う。周りにも周知したいです。

何かあったときに自分に何が出来るかを知りたいと思い参加。災害が起こった時にまず自分が困らない知識を持つ、自分事としての心の準備を整えておくことが大切だと知った。このようなフォーラムに参加し、イメージを膨らませることは大切だと感じた。

日本はどこに住んでいても被災する可能性が高い。災害に直面しても、少しでも知識があれば立ち上がる力になるので、このようなフォーラムや講習をうけ知識をつけ、皆で分かち合い、更に広めていく事が大事だと思った。

令和7年 第12回静岡県

介護技術コンテストを振り返って

“その人らしさ”の数だけ介護がある ～多様な生き方に応える、現場のチカラ～

去る11月15日、「令和7年度介護技術コンテスト」が静岡県総合社会福祉会館にて開催されました。今回のコンテストでは、YouTubeによるオンライン配信、養成校学生のモデル役など新たな取り組みにも挑戦しました。介護の現場では『その人に寄り添う』といった言葉がよく聞かれます。『寄り添う』とは具体的にはどのような事なのだろう？と思案する中で、目の前の方の疾患や障害の特性をきちんと理解することが第一歩となるのではと考え『失語症』、『全盲』といった障害を有する方への支援を課題といたしました。参加された選手の皆様方が、エビデンスに基づいた介護とコミュニケーション、くわえて自分ならではの関りを十分に発揮してくださいました。介護人材不足に始まり、ICT導入による生産性向上など、様々な課題や時流があります。今後ケアコンテストも『あり方』や『形』を転換していくことが必要となってくるかもしれませんが、ケアコンテストを通じて皆様方が『明日からの介護』を少しでも前向きに捉え、『思い』や『誇り』を繋いでいける、そのような場として来年度以降もケアコンテストを開催していきたいと考えています。

実行委員長 佐藤 葉子



受賞者からの言葉

最優秀賞(県知事賞)

- ・全盲の方の「排泄支援」
(株)アクタガワ プレミアムハートライフ大岩 真島あすか 様
- ・失語症の方の「入浴支援」
(福)楽寿会 介護老人保健施設楽寿 櫻井由紀子 様

静岡県介護福祉士会会長賞 (個別援助計画書優秀賞)

- ・全盲の方の「排泄支援」
(福)清承会 特別養護老人ホーム白扇閣様
- ・失語症の方の「入浴支援」
(医)志太会 介護老人保健施設ユニケア岡部様

介護技術ケアコンテストに出場したきっかけは、長年携わってきた介護の仕事にもっと自信を持ちたいと思ったことからでした。同僚や事業所の皆さんから「大岩の名前を宣伝してきてよ」「真島ならできるよ」と温かい言葉をかけてもらい、大きな励みになりました。



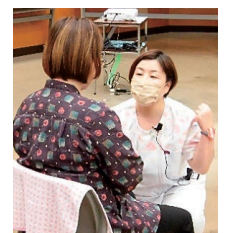
コンテスト本番では緊張もありましたが、多くの学びと気づきが得られ、自分の技術や介護に向き合う姿勢に自信を持つことができました。今回の経験を力に、より質の高いケアを提供できる介護福祉士になることが、私の夢であり目標です。

(株)アクタガワ プレミアムハートライフ大岩 真島あすか

介護技術コンテストの課題に取り組むにあたり、失語症への理解と接し方について、看護師や理学療法士にアドバイスをいただき、実際の練習では尊敬する先輩方に指導していただきました。自分一人では決して取れなかった賞です。コンテストは介護技術の披露という場であると思いますが、私にとっては気づきの機会であったと感じています。課題について学んだことや考察したことを、コンテストだけではなく実際の現場で活かせることが大きな喜びでもありました。

また、他の出場者の取り組みを見て、こんなアプローチもあったんだとの驚きもありました。これからも広い視野で技術を取り入れ、介護支援に努めていきます。

(福)楽寿会 介護老人保健施設楽寿 櫻井 由紀子



職場からの応援で 競技者も力をもらいます!

いつものように がんばってー!



フレ〜! フレ〜!

競技者インタビュー

介護技術コンテストで見た成長と学び

「その人らしさ」の数だけ介護がある「多様な生き方」に応える、現場のチカラをテーマに、声かけや環境調整、温度・音への配慮など、細部にまで工夫を凝らしたケアが披露されました。限られた時間の中でも、利用者のペースを尊重し、安心につながる明るい雰囲気づくりに努める姿が印象的でした。

また、主語を「私たち」とすることで、「介護は一人では完結しない」というチームケアの姿勢を表現。演者の背後にある多くのスタッフの支えを感じさせる取り組みは、会場からも「チームワークの良さが伝わる」と高く評価されました。参加した競技者は、「緊張しましたが、挑戦することで成長できました」「自己採点は85点くらいです」と振り返り、今回の経験を今後のケアに生かしたいと前向きな姿勢を見せてくださいました。



時間の制約から最後までやり切れなかった部分もあったものの、それも含めて大きな学びとなったようです。

インタビューでは、「わかりやすい言葉で伝える」「動作ごとに同意を得る」「五感を使って寄り添う」といった普段のケア姿勢が語られました。利用者一人ひとりに寄り添う丁寧なコミュニケーションが、このコンテストの場でもしっかりと発揮されていました。慣れない環境での戸惑いはありつつも、小さな変化に気づく洞察力や、落ち着いた対応が評価されています。

特に、利用者の自己決定を尊重し、「一人で抱え込まず、チームで支える」という視点でケアを組み立てている点は高く評価されました。異性介助の場面では、触れる部位への配慮や丁寧な説明を通じて、利用者の安心感を引き出す姿勢が光っていました。普段から支援計画書や生活歴を丁寧に読み込み、「その人を知ること」を大切にしているという言葉からも、学び続ける姿勢が伝わってきます。時間に追われる場面においても、丁寧な確認や不安に寄り添う姿勢、できる部分は本人に任せる自立支援の視点が、しっかりと表れていました。

全盲の利用者を想定した支援では、見えない不安に寄り添うため、声のトーンや触れ方、環境づくりに至るま

で、一つひとつを丁寧に積み重ねる姿に、会場は静かに引き込まれていきました。観客からは「優しさが伝わった」「安心できるケアだった」といった声が多く寄せられました。緊張しながらも、利用者の小さな変化に気づき、丁寧な説明を重ねながら同意を得て進める姿勢は、日々の実践そのものでした。



学生からの感想

審査員として協力頂いた静岡福祉大学の恩田靖子さんは、競技を振り返りながら「教科書だけでは分からない介護の深さを感じました」と、真剣な表情で話してくれました。

特に心に残ったのは、競技者の皆さんが利用者の状態に合わせて声をかけたり、動きを支えたりする細やかな姿勢だったそうです。全盲の利用者設定では、そっと肩に手を添えたり、「今から〇〇しますね」と一つひとつ丁寧に伝えたりする様子に、安心をつくる介護の大切さを感じ、失語症の設定では、言葉を選びながらゆっくり伝えたり、ジェスチャーを交えたりと、相手に寄り添う工夫が随所に見られたと話していました。「立位の際に安全に立ち上げられる様に足の位置を調整していたのがすごく勉強になりました」と、学生ならではの視点で学びを語ってくれました。



利用者の趣味や好きなことを大切にしたい関わりにも心を動かされたようです。歌やラジオの話題で自然に笑顔が生まれたり、植物が好きという設定を生かして入浴剤を提案したりと、「その人らしさ」を大切にしたい介護の温かさを感じたと話していました。「皆さんの姿勢をお手本にして、これからの授業や実習に生かしたいです」そう語る学生の表情は、どこか誇らしげで、未来の介護を担う人としてのまっすぐな思いが伝わってきました。

広報委員 坂下 裕

介護技術コンテスト
同時開催イベント

講演「フィンランドの高齢福祉」

フィンランド在住歴32年のヒルトゥネン久美子氏を講師に迎え、現地の文化や福祉の理念について分かりやすくお話していただきました。世界幸福度ランキング1位を誇るフィンランドの福祉のあり方では、特別な取り組みをしているわけではなく、「当たり前なことを当たり前に行う」姿勢が社会全体に根付いていることが、人々の心の充足につながり、結果として国全体の幸福度を高めているという点が大変印象的でした。その中で紹介された「MY介護士制度」は、利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を尊重する仕組みです。「みんな違ってみんないい」という言葉は、今回の技術コンテストのテーマである「多様性」と重なります。フィンランドの事例が示すように、違いを尊重し合い、その人らしい生活を支えることこそが介護の本質であり、私たちが目指すべき介護の姿ではないでしょうか。一人ひとりが「多様性」を大切にし、より豊かな介護を実現していけることを心より願っております。



イベント担当理事 鍋田 弥寿人

介護過程の展開研修 ～アセスメントの視点を学ぶ～

■開催日/令和7年10月13日(月) ■講師/高木 剛氏(静岡県立大学短期大学部 教授)

介護過程の展開に係る基本的な内容を理解することをねらいとし、介護過程の概要、展開、介護過程を取り巻く現状と課題、演習の4部構成で研修が実施された。ワークシートを使っての演習は具体的で、現場ですぐに活かされると受講生から大変好評だった。また、休憩中や研修終了後も講師へ質問するなど、受講生の研修に対する熱意と介護過程について学びたいという意欲を感じることができた。

今回の基礎編に続き、次年度は応用編を予定している。利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供していくため、また介護職が現場でリーダー的役割を果たすための「応用力」を身に付けていただけることを期待している。

生涯研修委員会



ハラスメント研修 ～正しい理解と対処法を学ぶ～

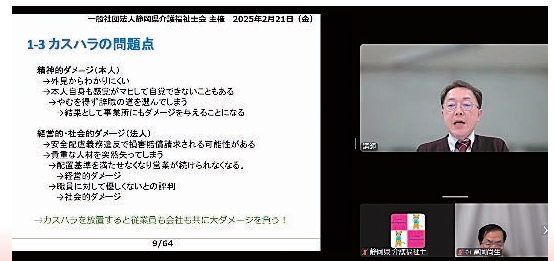
■開催日/令和8年1月23日(金) ■講師/藤元 聖一氏(ふれあい福祉法務事務所 所長) ■Zoomによるオンライン研修

安心して働くためにカスタマーハラスメント(カスハラ)について学びました。介護の現場では、利用者様やご家族との関わりが日々の業務の中心となるため、職員が安心して働ける環境づくりは欠かせません。

今回の研修では、カスハラの基礎知識や、訪問系・施設系それぞれのサービスで起こりやすいトラブルの特徴、そして適切な対応の考え方について理解を深めました。グループワークでは、実際の発言事例をもとに「正当なクレーム」と「悪質なクレーム」を見極めるポイントを話し合うことで、相手の話を丁寧に聞く姿勢の大切さや、反論を急がず客観的な事実を確認すること、気分を害したことへのお詫びは内容を認めることではないといった意見が挙がり、現場で役立つ視点を共有する時間となりました。また、複数人での対応や安易な約束を避けること、記録の重要性など、日頃から備えておくべきポイントについても確認しました。さらに、迷惑行為への対応方針を明確にし、マニュアルや契約書の見直しを行う必要性についても学びました。

今回の研修を通して、利用者様・ご家族・職員が互いに尊重し合える環境づくりの大切さを改めて感じる機会となりました。今後も安心して働ける職場づくりに取り組んでまいります。

駿東・田方ブロック 坂下 裕



福祉レクリエーション

「カローリング」

床でカーリングの魅力味わえる「カローリング」

この競技は1993年6月に名古屋市で誕生した。ストーンを氷の上で滑らせるカーリングに対し、カローリングは、樹脂製で三つの車輪がついた重さ2キログラムの円盤「ジェットローラー」を、11メートル先にある直径90センチの円「ポイントゾーン」に滑らせる。

冬季五輪で熱戦が続いたカーリング競技。日本女子代表の活躍で注目が高まっており、氷上のチェスとも呼ばれる頭脳戦に魅せられた。「カローリング」は、子供から高齢者まで年齢・性別・体力に関係なく気軽に競技でき、スポーツセンター、体育館、公民館、オフィスなどの施設のフロア(床面)を利用するため天候に左右されず、冬季競技の設備が少ない静岡県内でも、カーリングの魅力味わえる「カローリング」が注目を集めている。

駿東・田方ブロック 倉島 修



令和7年度 ブロック活動報告

駿東・田方ブロック

■支援付き意思決定支援研修 6月1日 清水町福祉センター
 昨年の入門編に続き第2回目は介護職に求められる意思形成と意思表出を学んだ。利用者の“気持ち”や“望み”にどう寄り添うかを体験的に学び、グループワークでも活発な意見交換が行われた。この研修で得た学びや気づきを、実践に取り入れる視点をもち帰っていただけたらと思う。



■Potluck partyブロック交流会 9月19日 三島市民文化会館
 恒例となった持ち寄り食事会では、中山副ブロック長がギターの演奏を披露。和やかで楽しい交流会となりました。



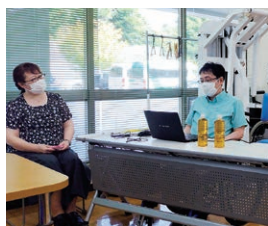
■自分も相手も守る介護技術 11月8日 清水町福祉センター
 参加者が実技をしっかりと学べるよう、演習の時間を拡大し、須田講師と斎藤講師の2名体制できめ細やかな講義と演習が行われた。参加者からは“いかに自分の体と利用者に負担をかけていたのかわかった”“補助器具や福祉用具の使用法、介助の際のコミュニケーションの取り方も学べ、即現場で活かしていきたい”などの感想をいただいた。相手に安心感と尊厳を与え、介護者の負担(腰痛など)を軽減して双方が心身ともに穏やかに過ごせるケアを実践できるよう、今後も学びの場を提供していきたい。



担当理事 宇佐美 真澄

熱海・伊東ブロック

■交流会 ～地域との関わりから見えてくるつながりの大切さ～
 (9/28 中伊豆リハビリテーションセンター伊東の丘)
 地域の介護・福祉関係者に参加いただき「つながり」をテーマに青いカバ旅行者の長谷川夫妻より講話をいただいた。交流会では「トラベルヘルパーについて」「中・高校生と福祉」「伊豆半島の環境産業」など多岐にわたる話で大いに盛り上がった。参加人数は少なかったが、市の健康福祉部の看護師やトラベルヘルパーさん、伊東市の通所系部会の会長様、民生委員の方などが参加され、多種多様な方々と交流を深めることができた研修となった。



担当理事 長岡 紀澄

静岡市介護福祉士会

■回想法カフェ&ミニ施設見学 2月1日(特養)白扇閣
 SBS協賛のアーカイブライブでは懐かしい映像に笑顔が広がり、思い出話が尽きない時間に。参加者によるウクレレ演奏&介護講話では心が温かくなり、会場である白扇閣の見学やお菓子を囲んだ交流で心地よい学びが生まれました。

担当理事 鍋田 弥寿人



■新年交流会 2月7日 おでん屋「いっとく」
 静岡市内の介護に携わる会員・非会員の皆様をはじめ、ネパール人の育成就労に携わる方、ネパール学生、若年性認知症を患いながらも社会復帰を目指している方も参加していただき、それぞれの近況やお話を聞くことで、多くの方とつながりを持つことができた温かい交流会となりました。

ブロック長 山田 英和



中東遠ブロック

■「介護過程を学ぶ」11月23日 リフレU福田健康福祉会館
 中東遠ブロック&小笠・掛川保健福祉医療研究会協賛研修
 利用者の望む生活を実現するため、事例をもとにアセスメントにおける「意図的」な情報収集、チームスタッフとの情報共有、計画立案(ケアプラン)を学んだ。「この利用者のこの行動にはどんな背景(アセスメント)があるんだろう？」と、実際の現場でもチームで話し合い活かして欲しいと思う。

担当 田立 笑子

浜松ブロック

■福祉レク講座&交流会 2月15日 浜松市福祉交流センター
 レクリエーションの主体的な楽しみを意図的に活用し、利用者のモチベーションを向上させながら生活に取り込む福祉レクの手法を楽しみながら学ぶことができた。交流会では、認定介護福祉士やケアマネジャーを目指している方、職場での悩みを抱えている方など、お互いに情報共有しながら交流することができ実り多い時間となった。

担当理事 内山 栄介



福祉3団体座談会「私たちの多職種連携を考える」～100号記念誌から～

福祉現場と社会の両面から「連携の本質」を紐解く貴重な機会となりました。各職種が主体的専門性を発揮する時、深い部分で相互理解が進み、より高度な連携が構築されていきます。その時、多職種連携は互いに「言い合い」から「聞き合い」へと変貌し利用者中心の支援を顕現化していく方向へ大きく舵を切っていく、そんな期待と展望を感じることができました。

また、読者の皆様からも『介護福祉士として連携を取っていくためには介護支援専門員や社会福祉士の力が必要になってくると思います。』『利用者本位という目的を見失わず、支援の経過を大切にする姿勢こそが、介護福祉士が発揮すべき専門性と改めて学びました。』『自ら積極的に課題に取り組み、自身の資質向上のために研鑽を重ねていく主体的専門性の発揮が私達介護福祉士に求められているのではないかと感じました。』『職能団体同士が連携を取ることで、働く側の知識向上に役立つと思います。』等、貴重なご意見をいただきました。

介護福祉関係の社会的地位の向上には連携は不可欠であり、団結して協力していくことが必要だと感じます。毎年実施されている4団体合同研修（社会福祉士会、ケアマネ協会、包括協議会、介護福祉士会）も各団体の協力連携のもと行われており、令和8年度は当会が担当となり実施しますので、会員の皆様のご参加ご協力よろしくお願ひします。

広報委員長 村松 正広



新入会員の加入状況

令和7年8月～令和8年3月 9名
(会員番号2205371～2205379)

■駿東・田方ブロック	1名	■静岡市介護福祉士会	4名
■志太・榛原ブロック	1名	■中東遠ブロック	1名
■浜松ブロック	2名		

トピックス

令和7年10月4日に東京ビッグサイトにて開催された第15回オールジャパンケアコンテスト 認知症A部門で、理事の鍋田弥寿人さん（特別養護老人ホームは白扇閣所屬）が見事最優秀賞を受賞されました。また、外国人介護職員A部門では、特別養護老人ホーム菜の花のジエンさんが受賞され、静岡県から2名の方が最優秀賞に輝いたことで、大変誇らしい気持ちになりました。

お二人は、塚本副知事を表敬訪問し、これまでの活動に対する労いを受けました。



事務局より

ケアウエルを利用しよう

ケアウエルに登録すると各種会員情報の変更・イーラーニング学習の視聴・研修履歴（生涯研修・認知症実践者研修、認知症実践リーダー研修）等も見ることができます。

静岡県介護福祉士会でもメールで情報共有できるよう随時準備していますので、ケアウエルにメール登録がない方はぜひ、メールアドレスをご登録下さい。詳細は、日本介護福祉士会HPのメニューか個人サイトの入り方を参照ください。



令和8年度 定時総会及び記念講演会

- 開催日／令和8年5月23日(土)
- 会場／静岡県総合社会福祉会館703
- 総会／13:00～15:00
- 記念講演／15:30～17:00

講師 勝野 秀敏(龍津寺住職)
テーマ『ふくしとぶんぶくとあなたとわたし』
「感情と願い(ニーズ)に心を寄せて～グリーンを軸に～」



広報委員より

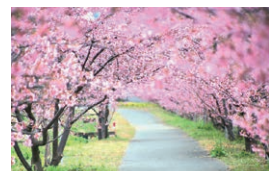
季節折々の素敵な風景や美味しいものを撮影し、掲載していきます。(川守)

編集後記

今年度も足早に過ぎ新年度を迎えます。皆さんの協力で多くの研修事業を開催しました。数ある研修の中でも特に介護福祉士受験要件の実務者研修には思い入れがあります。自ら別機関で本研修を受講し、開講準備に協力。実務者研修を強制修了(!?)したことから介護福祉士を取得する機会となったことは嬉しい思い出です。9年間で299名の方が修了していますが、ここ数年は、法人等での開催で受講生が激減、休止案もありましたが、講師陣の想いもあり300名達成をかけ10年に突入……継続することに決定！皆さんのPR力に期待します！

私事ですが、休日は孫たちと過ごすようしています。2月下旬、麻機遊水池(写真)の河津桜をバックに一年生になる孫娘の撮影に同行。お気に入りのランドセル姿に、成長を感じる癒しの時間となりました。新年度も事務局員一同楽しく、業務に尽力していきますので、どうぞよろしくお願ひします。

事務局長 平野



「麻機遊水池」撮影：川守